

町内イベントの報告

■保科正之公生誕 400 年を来年に控え、顕彰事業 「～会津藩祖・徳川二代目将軍秀忠の子～ 保科正之公が眠る地・猪苗代の空のもとに集まろう」 が開催されました

会津藩祖・保科正之公が 23 年で生誕 400 年を迎えるに当たり、猪苗代の偉人を考える会会員らを中心に誕生したのが、保科正之公生誕 400 年記念事業実行委員会です。

同会が主催した顕彰事業「保科正之公が眠る地・猪苗代の空のもとに集まろう」は 10 月 31、11 月 1 日の両日、町内で開催されました。

31 日は学びいなで記念講話やパネルディスカッションなどが実施され、町内や正之公ゆかりの地、長野県伊那市などから約 300 人が参加しました。実行委員長の津金町長が「正之公の人物像について、より広く知られる機会になってほしい」とあいさつをした後、記念講話に入りました。

講話では、篤姫や新撰組などの大

河ドラマを手掛けた NHK の屋敷陽太郎チーフプロデューサーが、来年の大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」の制作の舞台裏や数々の裏話などを、笑いを交えながら話しました。

パネルディスカッションでは、猪苗代の偉人を考える会の小絵山六郎さんがコーディネーターとして登場。正之公ゆかりの地（高遠、山形、会津、猪苗代）から参加したパネラーが「正之公を育んだ人たち」をテーマに、正之公の人柄、事蹟や関わり合った人たちについて語りました。

本町からは、猪苗代の偉人を考える会の江花俊和会長がパネラーとして参加、これまであまり知られていなかった正之公のエピソードなどを披露しました。

その後のアトラクションでは、会



保科正之公

津東山芸妓衆が華麗なおどりを披露し、会場を訪れた参加者らを魅了しました。

夜には、正之公が眠る土津神社の社人町、土町地区の民宿街で「保科正之公を語る夕べ」が開かれ、参加者と地区住民は、酒を酌み交わしながら親睦を深め合い、来年の再会を約束しました。

1 日は、正之公の墓参と周辺を散策する史跡巡りが開催され、約 50 人が参加しました。猪苗代の偉人を考える会の鈴木清孝さんの案内で、磐椅神社など正之公ゆかりの史跡を巡り、会津藩の礎を築いた偉人に思いをはせました。

実行委員会の会員らは、「本番となる来年に向け、さらに意識を高め、多くの皆さんに正之公と本町のことを知ってもらえるように活動していく」と意欲を見せました。



大河ドラマ制作の舞台裏などを語った屋敷陽太郎チーフプロデューサー



パネルディスカッションでは、正之公の知られざるエピソードが明かされました



会津東山芸妓衆の見事な踊りが観客を魅了しました



「保科正之公を語る夕べ」では参加者らが互いに親睦を深めました



土津神社や磐椅神社など正之公ゆかりの地を巡りました

猪苗代町体験交流館からのお知らせ

■成人式の申し込みはお済みですか

「大人」への第一歩を踏み出す皆さんの門出を祝う成人式を下記の日程で開催します。出席を希望する人で、まだ申し込みを済ませていない人は、至急電話で連絡してください。

●日時：23 年 1 月 9 日（日）

①午後 1 時～午後 1 時 50 分（受付）

※混雑が予想されます。余裕を持って来館してください。

②午後 2 時～午後 3 時 30 分（式典・記念撮影）

●場所：学びいなホール

●対象：平成 2 年 4 月 2 日～3 年 4 月 1 日に生まれた人のうち、町内に住所がある人または町内の中学校を卒業した人。

●その他：事前に申し込みをしていなくても出席することはできますが、印刷の都合上、12 月 22 日（水）までに申し込みがないと、「成人のしおり」に名前を掲載することができません。

編み物教室に参加しませんか



生徒の皆さんの力作が、学びいな祭りで展示されました

あなたの手元に、編みかけになっているものや編み方が分からなくなってしまったものなどはありませんか？

町体験交流館では、古川和子さん（松橋）がボランティアで講師を務める編み物教室を開催します。

全員が同じ作品を作るという形式ではなく、一人一人の作品に合わせた指導をしますので、受講を希望する人や詳しい内容について知りたい人は、下記まで連絡してください。

●期日：23 年 1 月 13 日、20 日、27 日、2 月 17 日、24 日、3 月 3 日、10 日（全 7 回 木曜日）

●時間：午前 9 時～午後 3 時 ●会場：学びいな

●受講申し込み・問い合わせ先：☎（66）3339（古川）

教育委員会コラム ～第八回～

テレビでクイズ番組がはやっていて。数
学や理科、歴史や文化など、いろいろな問
題があるが、その中でもよく漢字の問題が
出てくる。

昔、中国に「科挙」という超難関の試験
があった。隋王朝（日本の飛鳥時代）から
始まり、ラストエンペラーで有名な清朝末
（明治 44 年）まで続いた高級官吏登録試験
である。日本で言えば、昔の高等文官試験
や今の国家公務員上級試験に当たる。

唐代の荊州（古くは三国志にも登場し、
魏、呉、蜀の境界にあたり、激しい争奪戦
が繰り返された地域である。現在の荊州市
はその一部）では、長い間一人の合格者も
出なかった。人々はこれを天荒（天が荒れ
る未開の土地）と呼び、嘆き悲しんだ。一方、
揚子江の南の方は土地柄もよく、毎年大量
の合格者を出し、江南の秀才という言葉が
あったほどだった。

ある年、ついに劉蛻という若者が合格し
た。田舎の無名校が東京大学合格者を出し
たようなもので大騒ぎとなり、荊州の人々
は、天荒を破ったといって大いに喜んだ。
「人が今まで誰もなし得なかったことを行
う」という意味の「破天荒」の由来である。
たまに、これを「豪快、大胆な様子」など
と誤解する人がいるので注意が必要である
（旺文社「国語辞典」第八版より）。

漢字の由来や成り立ちを調べることは、
知識を増やすだけでなく、記憶の助けにも
なり、大変面白く興味をそえられる。（土屋）